

博物館 アラカルト 25

● 『桜田門外の変』の目撃者が、福山で捕まっていた!?

学芸員の日々の仕事の一つに、収蔵資料の整理があります。膨大な量の古文書を一点一点読み進めていくなかで、意外な発見をすることもあります。

万延元年（1860）3月3日に大老・井伊直弼が暗殺された、桜田門外の変に関する風聞を集めた『骨董録』という記録が当館にあります。この場合の「骨董」とは、「あらゆるものを一緒にする」という意味で、事の真偽を問わず事件に関するあらゆる風聞を収録しています。その中に次のような記事がありました。

3月末頃、福山道三町に宿泊する怪しい男がいたので役人が捕まえ取り調べたところ、

「私は芸州（広島県西部）の出身で、江戸で井伊家に奉公していました。3月3日に江戸城に登城する行列に加わっていたところ、突然襲撃されました。何がなんだかわからぬまま屋敷に逃げ帰りましたが、今後のことが不安になって屋敷を脱け出し、故郷に帰る途中です」

と話したとのことである。

この記事は、歴史を塗り替える発見というわけではありません。しかし、民衆の立場からの桜田門外の変のナマの証言を知ることのできる資料として、貴重なものです。

『骨董録』は平成21年度に当館古文書学習会で解説し、『研究紀要』12号で詳しく紹介しています。『研究紀要』12号は当館ミュージアムショップで1冊1,000円で販売しています。

『骨董録』の実物は、次の展示で紹介する予定です。

秋の企画展

幕末の動乱と瀬戸内海

平成22年10月15日（金）～11月23日（火・祝）

坂本龍馬の手紙や長州戦争絵巻などから、幕末の動乱の中で生きた人々の姿を紹介します。